

令和元年度進捗評価シート

伊豆の国市歴史的風致維持向上計画(平成30年7月11日認定)

□進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	
1 計画の推進体制	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	
1 伊豆の国市景観形成基本計画等との連携	2
2 「伊豆の国市景観形成基本計画」、「伊豆の国市屋外広告物条例」に基づく屋外広告物の適正な維持管理	3
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)	
1 江川文庫収蔵施設建設事業	4
2 江川邸周辺の歴史的風致形成建造物保全事業	5
3 史跡葦山反射炉保存修理事業・史跡葦山反射炉整備事業	6
4 無形民俗文化財記録作成事業	7
5 地域に根付いている祭事に対する運営支援事業	8
6 (重文)葦山代官江川家関係資料美術工芸品保存修理等事業	9
7 史跡葦山役所跡保存活用計画策定事業	10
8 史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存整備事業	11
9 史跡公園整備事業「守山中世史群」PFI事業	12
10 葦山城跡総合調査事業	13
11 江川邸と葦山反射炉を結ぶ道路の美装化事業	14
12 重点区域における景観を阻害する電柱の撤去・移設事業	15
13 長岡温泉街の中心部を通る道路の美装化事業	16
14 民有地における伊豆長岡温泉活性化に向けたまちづくり・賑わいづくり創出事業	17
15 公共サイン整備事業	18
16 市内民俗芸能・祭典等実施事業	19
17 市民組織の活動費補助事業	20
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)	
1 文化財調査、指定、保存管理(活用)計画の策定	21
2 文化財に関する普及・啓発の取組、防災訓練の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組	22
3 文化財の修理事業、文化財の周辺環境の整備事業、防災・防犯に関する事業	23
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	
1 歴史や伝統文化を生かしたまちづくりに向けて	24
⑥その他(効果等)(様式1-6)	
1 住民意識の向上	25
2 文化財の保存及び活用のに向けた普及・啓発の必要性	26

□法定協議会等におけるコメントシート(様式2)	27
-------------------------	----

評価軸①-1
組織体制

項目		評価対象年度	令和元年度																
現在の状況		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手																	
計画の推進体制																			
計画に記載している内容	本計画の推進、実施にあたっては、計画策定時同様に都市計画課・文化財課が事務局を担い、歴史まちづくり法第11条に基づく伊豆の国市歴史的風致維持向上協議会において計画推進や計画変更、円滑な事業の実施に向けた協議を行い、事業を推進することを基本とする。計画の推進や事業の実施に際しては、国や静岡県等の指導を仰ぎながら、庁内の関係各課との連絡調整を行いつつ、事業対象となる文化財の所有者や周辺住民等と協議の上、一体となって事業を推進する。																		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で																			
法定協議会である「伊豆の国市歴史的風致維持向上協議会」は、計画策定時に4回の会議を開催した。計画認定後の事業推進に係る評価機関として、引き続き意見聴取を行う。内部体制としては、事務局である都市計画課と文化財課の連携はもちろんのこと、事業の主担当部署である建設課や観光課との庁内協議を必要に応じて行っており、各事業の進捗状況を共有できた。																			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)																	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない																			
状況を示す写真や資料等																			
●庁内会議の開催 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>検討内容</th> <th>開催日</th> <th>検討内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H30.8.20(月) 対象:観光課</td> <td>・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認</td> <td>H31.4.11(木) 文化財課との協議</td> <td>・事業進捗評価手法、スケジュール確認 ・進捗評価シートの作成等の確認</td> </tr> <tr> <td>H30.8.21(火) 対象:建設課</td> <td>・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認</td> <td>R2.1.10(金) 文化財課との協議</td> <td>・計画書変更箇所の確認 ・進捗評価シートの確認</td> </tr> <tr> <td>H30.9.12(水) 文化財課との協議</td> <td>・事業進捗評価手法、スケジュール確認</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>  庁内会議の状況 事務局：都市計画課、文化財課 <コアメンバー> 観光課（観光振興部局） 建設課（都市整備部局） 文化財課（教育部局） 都市計画課（計画推進部局） 庁内会議の体制				開催日	検討内容	開催日	検討内容	H30.8.20(月) 対象:観光課	・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認	H31.4.11(木) 文化財課との協議	・事業進捗評価手法、スケジュール確認 ・進捗評価シートの作成等の確認	H30.8.21(火) 対象:建設課	・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認	R2.1.10(金) 文化財課との協議	・計画書変更箇所の確認 ・進捗評価シートの確認	H30.9.12(水) 文化財課との協議	・事業進捗評価手法、スケジュール確認		
開催日	検討内容	開催日	検討内容																
H30.8.20(月) 対象:観光課	・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認	H31.4.11(木) 文化財課との協議	・事業進捗評価手法、スケジュール確認 ・進捗評価シートの作成等の確認																
H30.8.21(火) 対象:建設課	・計画認定の報告 ・事業進捗評価手法、スケジュール確認	R2.1.10(金) 文化財課との協議	・計画書変更箇所の確認 ・進捗評価シートの確認																
H30.9.12(水) 文化財課との協議	・事業進捗評価手法、スケジュール確認																		

●協議会の開催

開催日	検討内容
R元.6. 19(水)	・計画の概要について ・進行管理、進捗評価の手法について
R2. 3. 8 (日)	・計画書の変更について ・進捗評価シートについて



伊豆の国市歴史的風致維持向上協議会

評価軸②-1

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目	評価対象年度	令和元年度
		現在の状況
伊豆の国市景観形成基本計画等との連携		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

本市の景観計画は、豊かな自然と、人びとの生業と生活によって培われた歴史や文化によって形づくられ、現在に至るまで伝えられてきた固有の資源を市民共有の財産として捉え、今後のまちづくりに活かし、伊豆の国市独自の景観形成を進めることを目的として、市域全体を対象とした方針を位置づけている。計画に位置づけている景観重点整備地区については、歴史的風致維持向上計画に位置づけた重点区域内に入れ込んでおり、既設の歴史文化資源と調和するよう景観の向上を目指している。

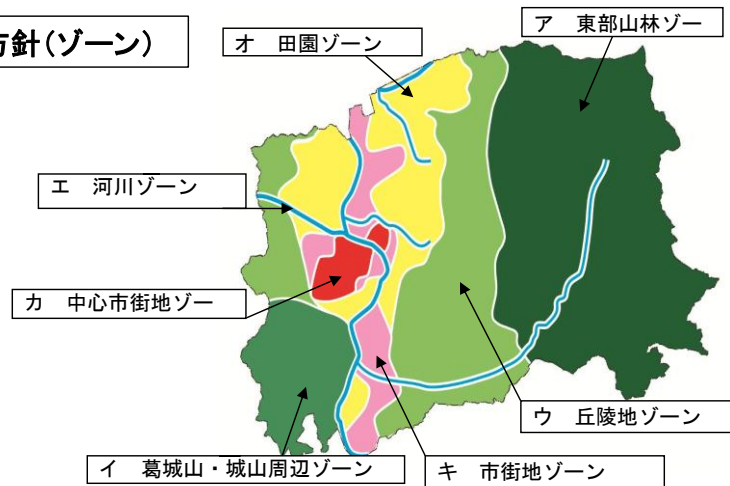
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伊豆の国市景観計画に基づく景観計画区域の全域を対象に、届出対象行為に該当する全ての建築・工作物について、行為の制限を設けた。また、制定した屋外広告物条例では、特別規制地域や普通規制地域を設けて、広告物や掲出物件の設置に関する基準を明確化し、事業者に対し色彩基準等の啓発を行って屋外広告物指導事業を推進している。

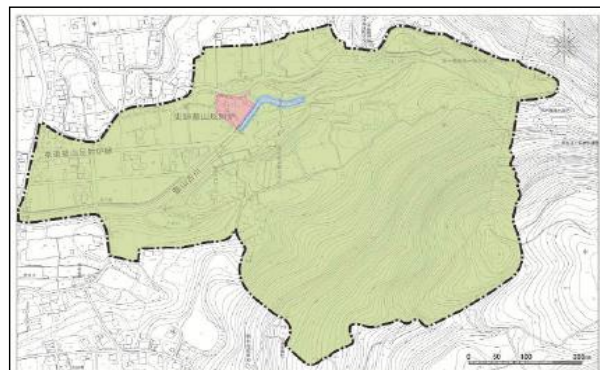
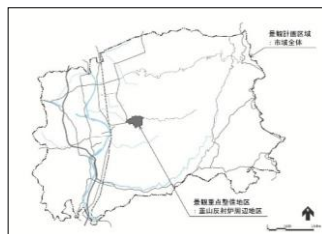
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

土地利用基本方針(ゾーン)



景観計画に規定した景観重点整備地区の範囲



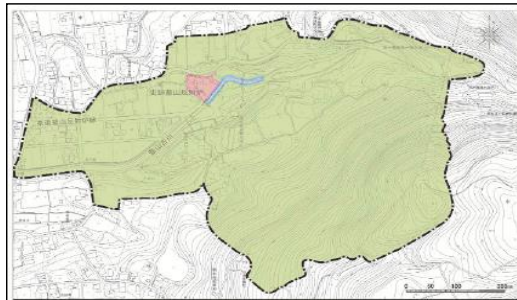
評価軸②-2

重点区域における良好な景観を形成する施策

項目		評価対象年度	令和元年度
		現在の状況	
「伊豆の国市景観形成基本計画」、「伊豆の国市屋外広告物条例」に基づく屋外広告物の適正な維持管理		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
計画に記載している内容	歴史まちづくり法に規定する重点区域として設定した「韭山反射炉・江川邸とその周辺地区」は、江戸時代の韭山代官所をはじめ長年にわたって、まちの拠点として機能してきた地区である。史跡韭山反射炉周辺は、「伊豆の国市景観形成基本計画」において、景観重点整備地区に指定されている。		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
策定した景観計画では、韭山反射炉周辺地区は、「景観重点整備地区」(特に先導的かつ重点的に景観形成を図る必要があると認める区域)に位置付けている。このため、韭山反射炉等と調和する街並み景観を創出を目的に、周辺の建築物・工作物の高さや形態、色彩等を誘導するとともに、屋外広告物の削減に努め、形態や意匠について誘導することで、街並みの景観が改善できた。 ●屋外広告物の改善状況:市内の景観重点整備地区周辺を含めて、自家広告物27件と野立て看板等26件 計53件が改善された。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等

景観計画に規定した景観重点整備地区の範囲



誘導実績事例



誘導前



誘導後

施設上部の表示色に赤色が使用されていたことから、景観重点整備地区に相応しい色彩とするよう誘導した



誘導前



誘導後

自家広告物の表示色に赤色や黄色が使用されていたことや自家広告物以外の看板も設置されていたことから、景観重点整備地区周辺に相応しい形状や色彩とするよう誘導した

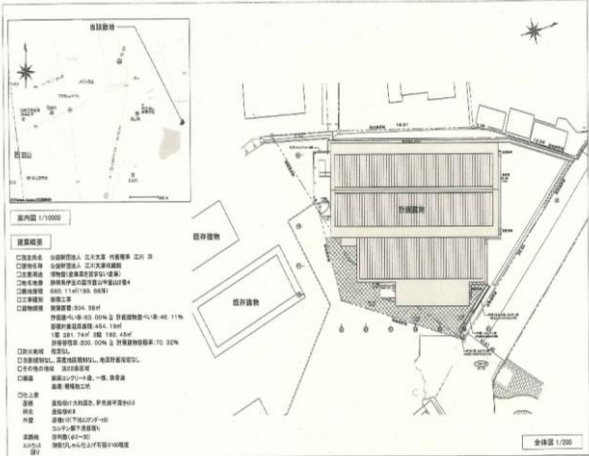
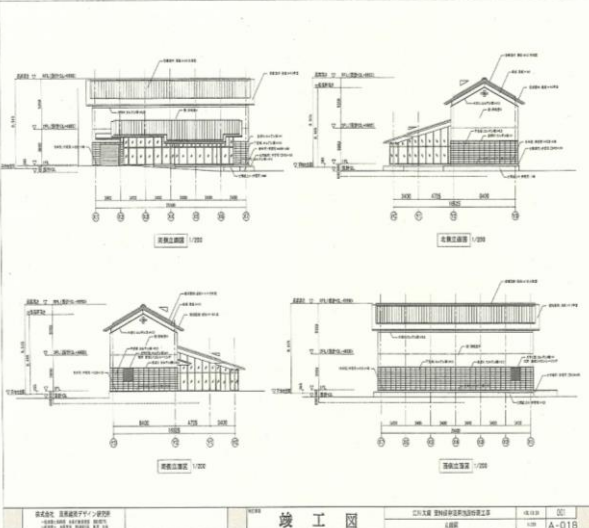


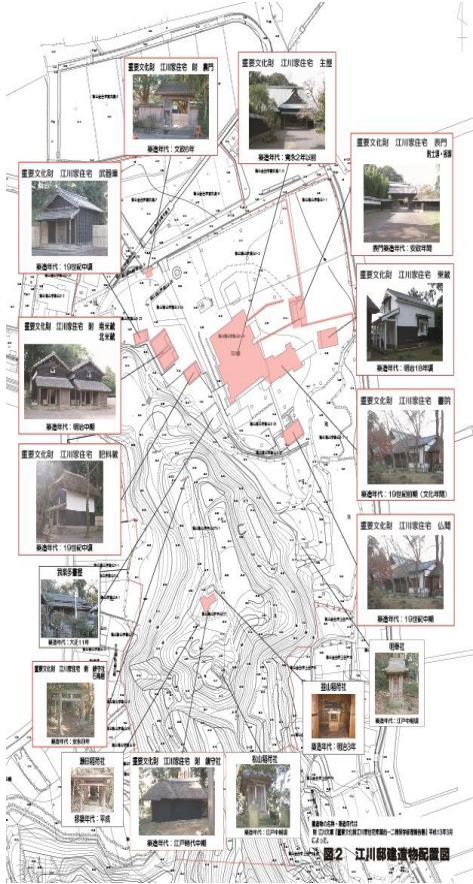
誘導前



誘導後

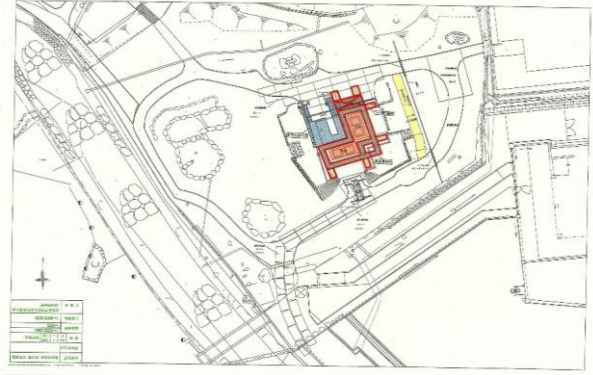
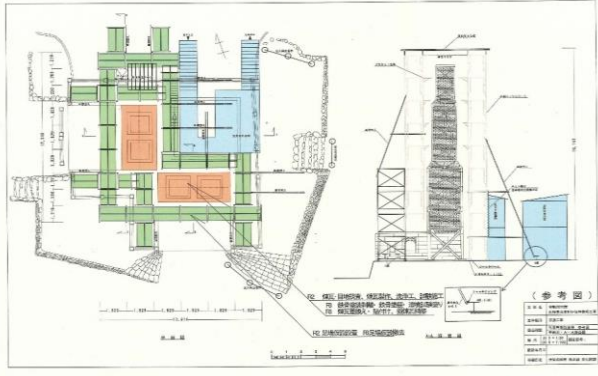
自家広告物の表示色に赤色が使用されていたことから、景観重点整備地区周辺に相応しい色彩とするよう誘導した

評価軸③-1 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項	
評価対象年度 令和元年度	
項目 江川文庫収蔵施設建設事業	
現在の状況 ■実施済 □実施中 □未着手	
事業期間	平成30年度～令和元年度
支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(重要文化財等(美術工芸品・民俗文化財)保存活用整備事業)
計画に記載している内容	公益財団法人江川文庫が所蔵する重要文化財菰山代官江川家関係資料・重要文化財江川家関係写真(合計約39,000点余)を適切に保存管理するための収蔵施設を建設する。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
江川文庫収蔵施設は令和元年9月に竣工し、文化財の保存環境整備のための空調設備試運転等を行っている。今後、計画的に所蔵資料を移転させていく予定であり、江川家資料等の保存管理体制の向上に寄与した。	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	
状況を示す写真や資料等	
竣工写真	
	
	
	
収蔵庫の仕様 建設地：静岡県伊豆の国市菰山菰山 2番地4 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造2階建 建築面積：304.38㎡ 延べ床面積：464.19㎡	
竣工図	

評価軸③-2 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項	
評価対象年度 令和元年度	
項目 現在の状況	
江川邸周辺の歴史的風致形成建造物保全事業	
☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和5年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	重点区域である江川邸周辺地区内に点在している歴史的風致形成建造物(葦山稲荷、松山稲荷、瀬田稲荷、明奉社、星の宮)について、維持保全を図るために、必要に応じ補修及び修復などを行う。
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で	
下記調査を実施したことで、歴史的風致形成建造物の候補の価値について一定の評価をすることができた。 ・平成29年9月20日、対象建造物の予備調査 ・令和元年12月6日、対象建造物の確認調査	
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☐ 計画どおり進捗している ☒ 計画どおり進捗していない	建造物調査を実施したが、建造物の価値では、歴史的風致形成建造物の指定基準を満たすものではなかったため、指定には至らなかった。そのため、江川家の民俗調査の結果を踏まえ、年中行事と密接な関係が確認できるものについて、歴史的風致形成建造物指定を検討したうえで、指定したものについては、必要な補修や修理を実施する。
状況を示す写真や資料等	
令和元年12月6日歴史的風致形成建造物候補調査 調査者: 伊豆の国市文化財保護審議委員 新妻淳子委員 調査対象: 松山稲荷社、瀬田稲荷社、葦山稲荷社、明奉社、香山寺山門	
 建造物調査 明奉社  建造物調査 香山寺山門  図2 江川邸建造物配置図	

評価軸③-3

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和元年度
項目		現在の状況
史跡韮山反射炉保存修理事業・史跡韮山反射炉整備事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成30年度～令和9年度	
支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業【史跡韮山反射炉保存修理】) 文化財保存事業費関係補助金(埋蔵文化財緊急調査事業【史跡韮山反射炉】)	
計画に記載している内容	煉瓦部分の劣化が進行している韮山反射炉本体について、保存修理工事を実施する。史跡内に所在した製砲工場としての遺構について発掘調査を行い、成果に基づいて史跡整備を実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で 『韮山反射炉保存・整備・活用に関する計画』に基づき下記の事業を実施したことで、文化財価値の維持、解明に寄与した。 保存修理事業 平成30年度 韮山反射炉保存修理基本設計の策定、令和元年度 韮山反射炉保存修理実施設計策定 令和2～3年 保存修理工事 発掘調査事業 令和元年に発掘調査を実施した。また、その成果は、発掘調査現地説明会を実施して市民に公表した。		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	『韮山反射炉保存・整備・活用に関する計画』に基づき実施する。	
状況を示す写真や資料等		
 韮山反射炉発掘調査現地説明会   韮山反射炉 保存修理工事設計図		

評価軸③-4

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和元年度
項目		現在の状況
無形民俗文化財記録作成事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	令和元年度～令和5年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	市内の祭礼や伝統行事について調査を行うとともに、記録を作成する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

下記事業を実施したことで、市内の民俗文化財の継承に寄与した。
 ・江川家の年中行事調査(令和元～2年度)、市民民俗調査(令和2～5年度)を計画
 ・令和元年度、民俗学の専門家を調査員に委嘱し江川家の年中行事の現地調査を10回実施

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等

調査日	行事名	調査内容
平成31年4月8日	稲荷社祭典	葦山稲荷、瀬田稲荷の初午祭典の調査
平成31年4月15日	松山社、明奉社祭典	松山社、明奉社の祭典調査
令和元年5月19日	井戸替え	江川邸内大井戸、ナカノ井戸、田宿井戸、神社の井戸の神事及び清掃について調査
令和元年8月	盆行事	江川家の盆行事及び準備の調査
令和元年9月12日	五難のおはぎ	日蓮宗関係行事の調査
令和元年9月20日	秋の彼岸	彼岸行事の調査
令和元年10月13日	御嶽神社祭典	江川家に関連の深い神社の祭礼調査
令和元年10月14日	本立寺万灯会	日蓮宗関係行事の調査
令和元年11月8日～13日	お会式	日蓮宗関係行事の調査
令和2年1月	正月行事	令和元年12月から準備作業から令和2年1月14日までの具足開きまでの一連行事調査



正月行事 正月飾り



井戸替え 大井戸



お会式

評価軸③-5

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

		評価対象年度	令和元年度
項目		現在の状況	
地域に根付いている祭事に対する運営支援事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手	
事業期間	平成30年度～令和9年度		
支援事業名	市単独事業		
計画に記載している内容	伊豆の国市で培われてきた祭事を維持し、継承していくため、開催支援を始め担い手の確保や育成を目的に必要な支援を行う。		

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市内で実施される祭礼のうち、三番叟が行われる、原木荒木神社(中止)、寺家守山八幡宮(中止)、大仁大仁神社(11/3)、田京広瀬神社(11/3)の祭礼について調査を行った。
平成31年2月にパンフレット「三番叟ガイド」を発行しPRを行ったことで、広く周知に寄与した。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	支援を受けられる祭礼の定義について検討を行う必要がある。

状況を示す写真や資料等



田京 広瀬神社 三番叟関係者からの聞き取り



田京 広瀬神社 三番叟上演の様子



大仁 大仁神社 三番叟出演者



パンフレット『三番叟ガイド』

評価軸③-6

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
(重文)葦山代官江川家関係資料美術工芸品保存修理等事業		現在の状況 ☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成30年度～令和5年度
------	--------------

支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(国宝・重要文化財美術工芸品保存修理抜本強化事業) 文化資源活用事業費補助金(美術工芸品美観向上整備事業)
-------	---

計画に記載している内容	重要文化財に指定されている「葦山代官江川家関係資料」の書画・古文書・典籍等を適切に保存・活用するため、保存修理を実施する。
-------------	---

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

江川家資料の保存・活用のために下記事業を実施したことで、文化財の価値の維持に寄与した。
 ・平成30年度 葦山代官江川家関係資料 保存修理事業 9点、美装化事業166点
 ・令和元年度 葦山代官江川家関係資料 保存修理事業 7点 美装化事業720点
 伊豆の国市は上記の事業について、市費単独による補助金交付と、国県補助事業の事業指導を行った。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	対象資料の選択及び年次計画及び公開活用について、所有者と協議を行い継続的な実施につなげていく。

状況を示す写真や資料等



美術工芸品保存修理事業の確認作業



評価軸③-7

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度
史跡葦山役所跡保存活用計画策定事業			現在の状況
			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成30年度～令和5年度
支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(史跡等保存活用計画策定事業)
計画に記載している内容	重要文化財江川家住宅を含む史跡葦山役所跡について、適切な保存と維持管理及び活用の方針・手法・現状変更の取扱基準等を定める。

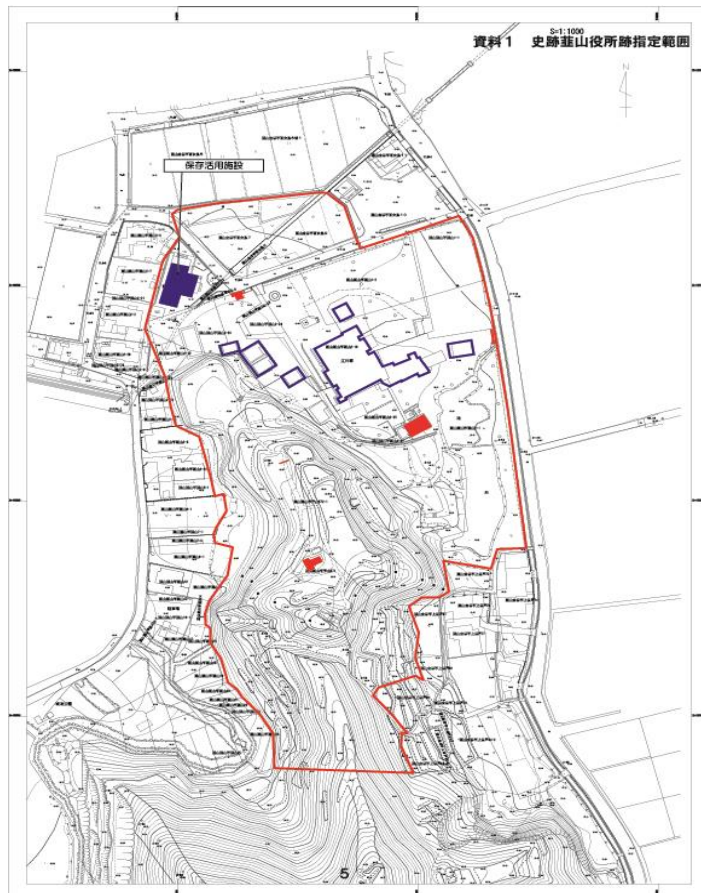
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

計画策定への着手準備として、所有者である江川家及び(公財)江川文庫と史跡、建造物、美術工芸品に関する打合せを実施し、現状や課題等を確認した。
打合せ回数1回(令和元年6月28日)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	史跡葦山役所跡には史跡のほかに建造物、美術工芸品が存在しており、美術工芸品の保存活用施設への移転、建造物の保存修理事業など計画している事業相互の調整の課題がある。これら事業計画を所有者と協議し、史跡の保存活用計画の策定を行うこととする。

状況を示す写真や資料等

協議範囲: 史跡葦山役所跡



評価軸③-8

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存整備事業		現在の状況 ☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成30年度～令和7年度
支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(歴史活き活き！史跡等総合活用整備事業) 文化財保存事業費関係補助金(埋蔵文化財緊急調査事業)
計画に記載している内容	史跡内における北条氏邸及び円成寺に関わる遺構の復原・遺構表示などの整備を行い、史跡が持つ歴史的価値を体感できる空間を整備する。合わせて、守山中世史跡群として把握され、隣接して存在する伝堀越御所跡、願成就院跡の保存・整備についても進める。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

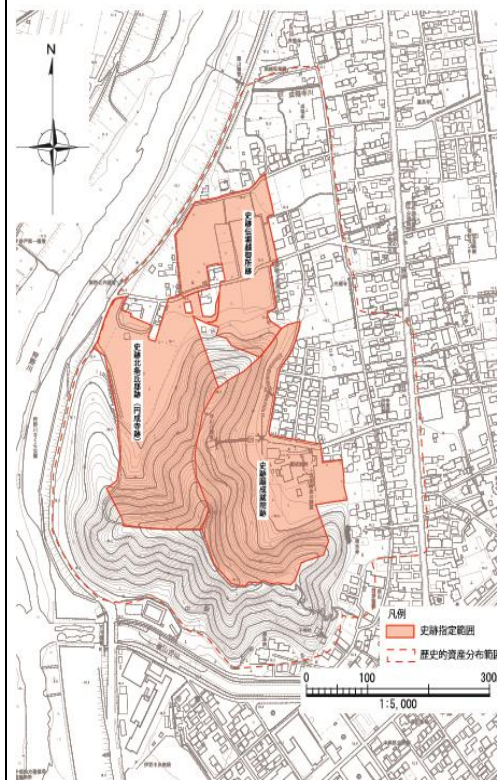
「史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画」を策定したことで、保存・整備・活用に向けた方針を示した。

・令和2年度「史跡北条氏邸跡整備基本計画策定」(予定)

・令和3年度「史跡北条氏邸跡整備基本設計」(予定)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



保存活用計画策定の範囲

史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・
史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画

令和元年9月
伊豆の国市

保存活用計画策定報告書

評価軸③-9

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
史跡公園整備事業「守山中世史群」PFI事業	現在の状況	☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手

事業期間	令和4年度～令和7年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	守山中世史跡群では、歴史・文化を活かしたまちづくりが期待されていることから、計画に位置付ける歴史的風致の一つとして今後の維持及び活用が求められる区域である。史跡及び周辺地域での整備・活用について、PFI事業の可能性を検討し、その結果を踏まえて史跡公園を整備する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

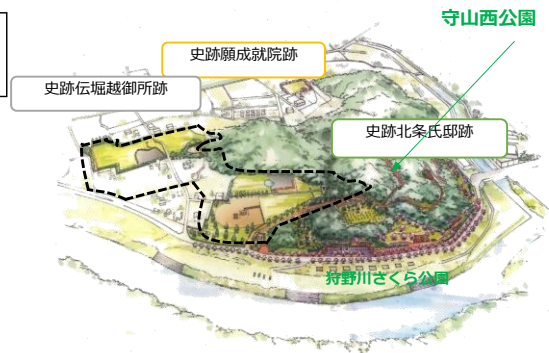
市では、平成28年度に歴史的価値のある文化資源を官と民がパートナーを組んだ事業展開の可能性調査を行った。調査対象の状況では現時点で相応の収益可能な施設がないことから、コンセッション方式による事業化は困難であり、コスト削減効果のあるPFI-BTO方式の導入可能性があるとの結果に至った。その後、対象地域である史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画が令和元年度に策定された。計画には、対象地域における活用のための整備方針として、史跡群への関心や理解を深めるガイダンス施設の整備・検討が位置づけられている。また、便益施設との一体化も視野に入れたうえで、周辺環境と調和のとれた施設として過大とならないよう配慮した整備を検討するとし、令和元年度に策定した史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画では、活用の方向性を位置づけた。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	保存活用計画の方針を踏まえ、今後、PFI事業の導入に関する収益施設の設置条件等の課題整理を行い、調整協議する。

状況を示す写真や資料等

平成28年度～平成29年度
歴史・文化資源活用手法調査事業民間資金等活用可能性調査の実施

～歴史的文化資源の保護から活用へ～
官民連携による事業展開の模索



平成30年度～令和元年度
史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画の策定

平成26年に策定した伊豆の国市歴史文化基本構想では、日本中世史の原点として守山地区を重点区域に設定した。守山中世史群の保存活用計画が未策定であったため、保存活用計画を策定し、3つの史跡の保存・整備・活用方針を定めた。

史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・
史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画

令和元年9月
伊豆の国市

評価軸③-10

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

評価対象年度		令和元年度
項目		現在の状況
葦山城跡総合調査事業		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手
事業期間	平成30年度～令和6年度	
支援事業名	文化財保存事業費関係補助金(埋蔵文化財緊急調査事業)	
計画に記載している内容	現在未指定である葦山城跡の国史跡指定を目指し、その本質的価値を明らかにするため、総合調査(発掘調査、文献調査、地形測量、縄張調査、古道調査)を実施する。調査については伊豆の国市史跡等整備調査委員会葦山城整備部会委員の指導を受けて実施する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
葦山城跡の保存活用のため下記の事業を実施したことで、文化財の価値の確認・解明に寄与した。 ・発掘調査 平成30年度 土手和田遺構群1箇所、令和元年度 本城二ノ丸1箇所 ・文献調査 平成30年度 九州方面2箇所、伊豆の国市内1箇所、令和元年度伊豆の国市内2箇所 ・地形調査 平成30年度 付城跡測量調査 1.07km² ・縄張調査 令和元年度 付城跡1箇所 ・葦山城部会開催 平成30年度3回、令和元年度2回		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	史跡指定や調査事業の実施にあたり、地権者との合意形成を行いながら実施する。	
状況を示す写真や資料等		
 平成30年度 土手和田遺構群発掘調査  平成30年度 北條寺文書調査  平成30年度 付城跡地区測量範囲		

評価軸③-11

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
江川邸と葦山反射炉を結ぶ道路の美装化事業		現在の状況
		☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手

事業期間 令和5年度～令和9年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 重要文化財江川邸と葦山反射炉を結ぶ南北の道で、道路愛称「坦庵公思案の道」と名付けられている自然豊かな歩行者道路を歴史の散歩道にふさわしい景観とするために、周辺の風景に調和した道路の美装化を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市では、令和元年度より、道路状況の調査、周辺景観の調査を行っている。その調査結果を元に、美装化実施手法の検討、整備項目の選定、概算事業費の算定及び事業スケジュール等の検討を図っていく。なお、観光地エリア景観計画の中で、「歴史・文化エリア」として位置づけていることから、道路景観等の課題を整理し、美装化に向けた整備方法等を検討していく。事業の概要等は、協議会委員にも理解され、重点区域内における事業の重要性が認識された。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

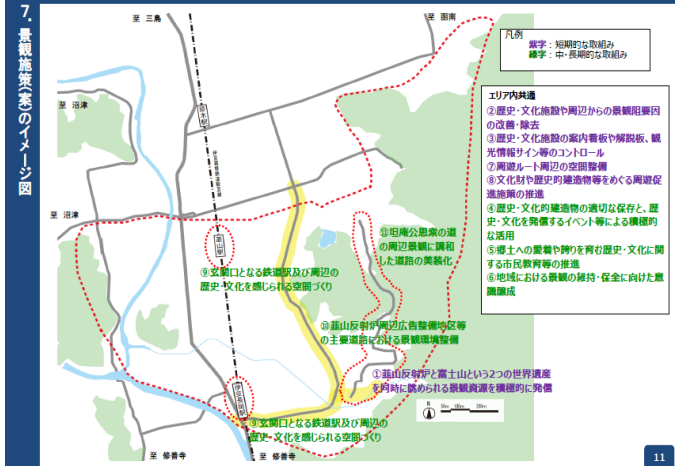
■計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等



坦庵公思案の道
葦山代官江川英龍ゆかりの江川邸・葦山反射炉界隈の営みにみる歴史的風致(重点区域)

7. 景観施設(公)のイメージ図



エリア内共通
 ②歴史・文化施設や周辺からの景観阻害の改善・除去
 ③歴史・文化施設の案内看板や解説板、観光情報サイン等のコントロール
 ⑦周回ルート周辺の空間整備
 ⑧文化財や歴史的建造物等をめぐる周回促進施設の整備
 ④歴史・文化向建造物の適切な保存と、歴史・文化を発信するイベント等による積極的な活用
 ⑤地主への働きかけや隣接する歴史・文化に関する市民教育等の推進
 ⑥地域における景観の維持・保全に向けた懇話会開催

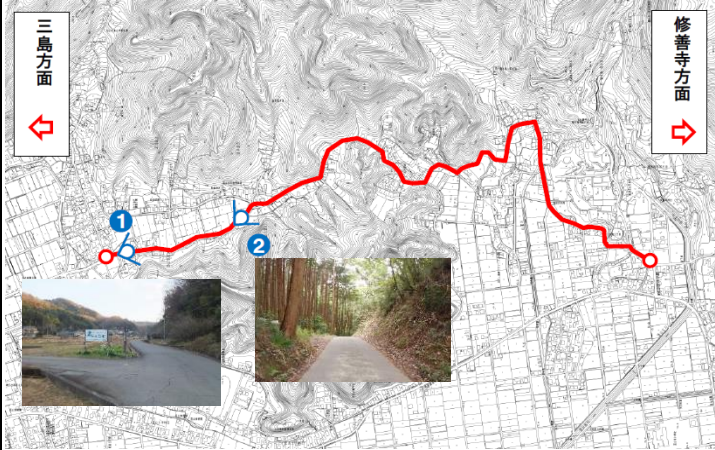
①江川邸と葦山反射炉を結ぶ主要道路となる鉄道路線及び周辺の歴史・文化を盛り込まれる空間づくり
 ②葦山反射炉が周辺広域整備地区等の主要道路に面する景観環境整備
 ③葦山反射炉と葦山山といふ2つの世界遺産を同時に眺められる景観資源を積極的に発信

④玄關口となる鉄道路線及び周辺の歴史・文化を盛り込まれる空間づくり

観光地エリア景観計画 エリア範囲図

三島方面





修善寺方面

坦庵公思案の道

評価軸③-12

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
重点区域における景観を阻害する電柱の撤去・移設事業		現在の状況 ☐ 実施済 ☐ 実施中 ☒ 未着手

事業期間 令和2年度～令和5年度

支援事業名 市単独事業

計画に記載している内容 重要文化財江川家住宅を含む史跡韭山役所跡や韭山反射炉の北側では、富士山を望むことができることから、歴史的風致とその周辺の景観を阻害する電柱の撤去や移設を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

市では、令和元年度より、電柱・電線の状況調査を行っている。その調査結果を元に、無電柱化範囲の検討、無電柱化手法比較検討、概算事業費の算定及び事業スケジュール等の検討を図っていく。なお、観光地エリア景観計画の中で、「歴史・文化エリア」として位置づけられていることから、整合性を図りながら景観を阻害する電柱の撤去・移設事業の推進を図る。事業の概要等は、協議会委員にも理解され、重点区域内における事業の重要性が認識された。

進捗状況 ※計画年次との対応

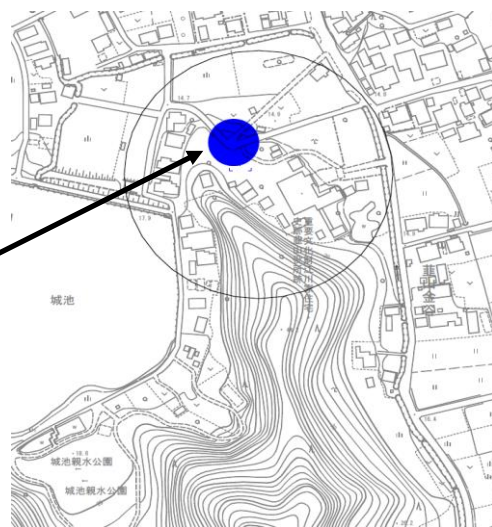
☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

状況を示す写真や資料等



周辺の景観形成(江川邸裏門)
韭山代官江川英龍ゆかりの江川邸・韭山
反射炉界隈の営みにみる歴史的風致(重
点区域)

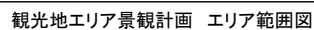
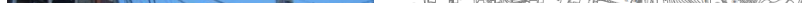


歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
----------------	--------------------------

状況を示す写真や資料等



評価軸③-14

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

令和元年度		令和元年度
項目		現在の状況
民有地における伊豆長岡温泉活性化に向けたまちづくり・賑わいづくり創出事業		☐実施済 ☒実施中 ☐未着手
事業期間	令和元年度～令和9年度	
支援事業名	市単独事業 他	
計画に記載している内容	歴史ある温泉街の風景として維持し、活用につなげることやアイデンティティーの維持形成を図ることを目的に、温泉街の活性化に向けた建造物の保存等を推進する。	
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		
平成27年度から伊豆長岡温泉温泉場お散歩市を開催し、休館した南山荘(宿泊施設)の建物を利用して人が集う場を提供している。お散歩市の後には、同所で市民や観光客が集える居場所づくりの取組も実施している。南山荘の庭の整備や、修繕など地域住民が協力し合い、賑わいを創出することで、歴史的建造物の維持や歴史ある温泉街の活性化に向けた意識が高揚した。また、年に3回ほど朝市から派生して夜市も開催し、観光客が浴衣で散策するなど、夜の温泉場の風情を醸し出す効果があった。 ●開催実績 お散歩市(朝市)12回の開催(約300人／1回当たり:出店数 約40店舗／1回当たり)、お散歩市(夜市)3回の開催		
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
☒計画どおり進捗している ☐計画どおり進捗していない	南山荘の再開のためには修繕も必要である。民間施設であることから、地域、行政の関わり方を模索しているところである。	

状況を示す写真や資料等

3 景観特性と課題

伊豆長岡温泉の拠点となる2つの温泉場と通り

(1)古奈温泉 あやめ小路周辺

伊豆の三古奈の一つである歴史深い温泉

古奈温泉は、奈良時代に関連し1300年の歴史があるといわれ、古奈温泉の湯谷神社の横には、温泉発祥の温泉孔跡が残っている。温泉場には、源頼朝が入ったといわれる温泉も残り、歴史・文化を感じる場所である。昭和まで伊豆石の採掘を行っていた石切場の跡も残っており、ジオパークとしての価値も高い。

古奈温泉の中でも、あやめ小路は、古き良き昭和の面影を残す閑静な温泉場の雰囲気を醸し出している。古奈温泉には、古奈別荘、三義荘等の政財界人の別荘から派生した歴史的な建造物が数多く現存している。

(2)長岡温泉 温泉場出逢い通り

大正・昭和期を通じて発展してきた温泉旅館群

かつて国内では、京都・奈良、伊豆長岡温泉の2箇所のみ置かれた公認静閑な旅館学校は長岡温泉場にあり、昭和60年代まで運営されていた。現在は、伊豆長岡芸術事業協会の組合の組合員として使用されている。

温泉場出逢い通りでは、長岡温泉場がまちの活性化を目指す市民グループが温泉場お散歩市や花によるおもてなしの取組を実施し、地域の賑わいや出会いの場として開かれ、多くの市民や観光客で賑わっている。

毎年3月末には、温泉神社の例祭が行われ、旅館関係者や芸術家により湯汲み式が開催されている。

〈景観形成の主な課題〉

- ・商業・休止中の旅館や商店等が点在し、温泉場全体が弱く印象を与える。
- ・旅館跡が住宅地に転用され、温泉場としての景観が失われつつある。
- ・電柱や電線により温泉場の景観が阻害されている。



温泉場お散歩市(朝市)の様子

観光地エリア景観計画に位置づけた景観特性と課題

3 景観特性と課題

2つの温泉場をつなぐ周道路と拠点

(1)古奈もみじ公園



もみじの巨木に囲まれた公園

もみじの巨木があることから古奈もみじ公園と名付けられた宿泊客や地域住民の憩いの公園である。あやめ館前の供養路があり、源氏あやめ祭の供養路が行われるなど、地域の歴史・伝統文化を残していくための重要な場所である。この公園から、遊歩道を登って、源氏山山頂に行くことができ、あやめ小路等を含めた古奈地区への周遊も期待できる。

(2)源氏山



2つの温泉場をつなぐシンボルの山

古奈温泉と長岡温泉との間に位置し、両方の温泉場から、遊歩道を通って山頂にアクセスできる。源氏山山頂は、春には満開の桜に囲まれる場所、山頂周辺及び散策ルートを整備することにより、景観の良好な視点を確保するとともに、古奈温泉と長岡温泉という2つの温泉場をつなぐことができる。源氏山七福神巡りは、周辺散策に活用されている。

また、源氏山山頂は、本来、360度を見渡すことができる視点であるが、山頂周辺に繁茂した樹木等により、眺望景観が阻害されている。

(3)伊豆箱根バス 温泉駅



長岡温泉の玄関口

かつては伊豆全域への定期観光バスの発着所であった。現在でも、伊豆箱根バスのバスターミナルとして使用されている温泉場の玄関口である。近年、アニメ作品の舞台としても注目を集め、今後、民間と地域等の連携により、人が集う拠点となる仕掛けや温泉場との連携活用が期待できる。

〈景観形成の主な課題〉

- ・源氏山山頂の眺望点の整備、周辺の樹木や竹等が眺望景観を阻害している。
- ・古奈もみじ公園から源氏山山頂までのルート(散策路)の整備、桜・竹等の維持管理が求められる。
- ・源氏山周辺の案内誘導サイン等のコントロール、整備が必要である。

5

評価軸③-15 歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項							
評価対象年度 令和元年度							
項目 現在の状況							
公共サイン整備事業							
□実施済 ■実施中 □未着手							
事業期間	平成30年度～令和9年度						
支援事業名	市単独事業						
計画に記載している内容	来訪者の円滑な移動を支援するため、公共サインの統一性の確保を目的に、景観への配慮、利用者の視点及び国際化に対応した道路案内サイン等を整備する。						
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で							
観光地エリア景観計画の策定過程で開催した地域景観ミーティングでは、公共サインの統一や外国語表記の必要性が指摘されている。平成29年度に県道の道路誘導看板を整備し、その後、歴史的風致維持向上計画の認定に合わせて既存のサインに、重要な歴史的風致の誘導サインを追加整備したことで、観光客等に対する誘導情報を拡充した。今後も、計画に基づく歴史・文化周遊環境整備を推進する。							
進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)						
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない	わかりやすい誘導表示、市内全域での看板のスタイル・素材・表記の統一感及び外国語表記が必要である。観光地エリア景観計画においても、わかりやすく景観に配慮した案内の整備を位置づけ、整備していく。						
状況を示す写真や資料等							
6. 景観施策案と実施主体・時期 目標2 歴史・文化資源の見える化とネットワークづくり(伊豆の国ライブヒストリアム) 方針2 歴史・文化の周遊環境整備 <table><tr><th>取組み</th><th>実施主体</th></tr><tr><td>短期 ⑦周遊ルート周辺の空間整備(植栽、樹木の修景伐採と適切な維持管理、歩行者、自動車、サイクリストに向けた標示等) ⑧文化財や歴史的建造物等をめぐる周遊促進施策の推進 【植栽、樹木の修景伐採】 【公共サインや観光案内板の色彩、形状、配置】</td><td>●市、地域、事業者、関係団体等</td></tr><tr><td>中・長期 ⑨玄関口となる鉄道駅及び周辺の歴史・文化を感じられる空間づくり ⑩韮山反射炉周辺広告整備地区等の主要道路における景観環境整備 ⑪坦庵公思案の道の周辺景観に調和した道路の美化</td><td>●市、地域、事業者、関係団体等</td></tr></table> 観光地エリア景観計画に位置づけた方針  江川邸、韮山反射炉へ誘導するサインの整備		取組み	実施主体	短期 ⑦周遊ルート周辺の空間整備(植栽、樹木の修景伐採と適切な維持管理、歩行者、自動車、サイクリストに向けた標示等) ⑧文化財や歴史的建造物等をめぐる周遊促進施策の推進 【植栽、樹木の修景伐採】 【公共サインや観光案内板の色彩、形状、配置】	●市、地域、事業者、関係団体等	中・長期 ⑨玄関口となる鉄道駅及び周辺の歴史・文化を感じられる空間づくり ⑩韮山反射炉周辺広告整備地区等の主要道路における景観環境整備 ⑪坦庵公思案の道の周辺景観に調和した道路の美化	●市、地域、事業者、関係団体等
取組み	実施主体						
短期 ⑦周遊ルート周辺の空間整備(植栽、樹木の修景伐採と適切な維持管理、歩行者、自動車、サイクリストに向けた標示等) ⑧文化財や歴史的建造物等をめぐる周遊促進施策の推進 【植栽、樹木の修景伐採】 【公共サインや観光案内板の色彩、形状、配置】	●市、地域、事業者、関係団体等						
中・長期 ⑨玄関口となる鉄道駅及び周辺の歴史・文化を感じられる空間づくり ⑩韮山反射炉周辺広告整備地区等の主要道路における景観環境整備 ⑪坦庵公思案の道の周辺景観に調和した道路の美化	●市、地域、事業者、関係団体等						

評価軸③-16

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目		評価対象年度	令和元年度
市内民俗芸能・祭典等実施事業			現在の状況
			☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

事業期間	平成30年度～令和9年度
支援事業名	市単独事業
計画に記載している内容	市の魅力や観光・歴史資源を生かした民俗芸能や祭典等を開催することによって誘客や歴史的資源及び伝統文化の継承を促し、観光交流客、宿泊客を増加させ、地域経済の活性化及び地域活力の向上を図ることを目的に伊豆の国市観光協会が行う次の事業へ補助する。様々なイベントの開催により本市の歴史的風致を多くの方々に周知することができた。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

下記の事業を実施したことで、本市の歴史的風致の認知度が向上した。
 伊豆の国市観光協会実施事業
 第84回源氏あやめ祭 令和元年7月6,7日
 かわかんじょう 令和元年8月1日
 芸妓まつりは「伊豆長岡温泉伊豆あやめ座華の宴」として、実行委員会により開催された。令和元年5月18日、19日

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



令和元7月 第84回源氏あやめ祭



令和元8月 かわかんじょう



令和元5月 伊豆あやめ座華の宴 チラシ

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
文化財調査、指定、保存管理(活用)計画の策定		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

文化財は指定・登録の有無を問わず、本市の歴史と文化を理解する上で必要不可欠なものであるため、必要な調査を行い、価値が認められたものについては市指定や国の登録制度の活用を検討することで適切な保護を行う。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

下記事業を実施したことにより、未指定の文化財の把握及び指定文化財の適切な維持管理に繋がった。

- 文化財調査
平成30年度 荒木神社俳額調査、北條寺文書調査
令和元年度 香山寺文書調査、歴史的風致形成建造物調査
- 文化財指定
市指定文化財(歴史資料)荒木神社俳額 新規指定1件
- 保存活用計画の策定
「史跡願成就院跡・史跡伝堀越御所跡・史跡北条氏邸跡(円成寺跡)保存活用計画」策定

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画どおり進捗している ☐ 計画どおり進捗していない	

状況を示す写真や資料等



市指定文化財 荒木神社俳額



香山寺文書調査

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	令和元年度
文化財に関する普及・啓発の取組、防災訓練の取組、民間団体への助成・支援や連携・協力した取組		☐ 実施済 ☒ 実施中 ☐ 未着手

計画に記載している内容

・文化財に対する認識を高めるためには、より多くの人びとに文化財の存在や理解を促す機会を提供する普及・啓発の取組が重要である。市内外の人々を対象とする普及・啓発は、案内板等の設置やパンフレット等の作成・配布とともに、イベントの開催等により実施する。
 ・防災教育や訓練は、文化財の所有者等に対して、防災に係る周知啓発と防災教育に取り組み、文化財防火デーには、各地の消防団や自主防災組織と連携して、文化財施設での通報訓練や初期消火訓練を実施する。地震対策としては、耐震診断や耐震補強工事の実施など、個別の災害ごとに必要と考えられる対策を行うことにより、き損・滅失のリスクの軽減を図る。
 ・各種団体の多様な活動をさらに活性化させるため、必要な情報提供や人材育成等を積極的に支援し、地域住民が主体となるような文化財保護活動を進めていく。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

下記の事業を実施したことで、市内外への周知とともに歴史的資源のPRに繋がった。
 ・15,000枚の歴史まちづくりカードを作成した。
 ・文化財に関する普及・啓発の取組(文化財シンポジウム1回、文化財講座1回、鑄物教室3回、県内世界遺産PRイベントへの参加4回、静岡県世界遺産講座への出講1回、歴史まちづくりカードの配布2,129枚:2019年12月末現在)
 ・防災訓練の取組(市内文化財施設における防災訓練3回)
 ・民間団体への助成・支援や連携・協力した取組、民間団体が実施した取組(文化財保護事業に対する補助5件、民間団体の取組み2件)

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☒計画どおり進捗している
☐計画どおり進捗していない

状況を示す写真や資料等

●文化財に関する普及・啓発の取組

実施内容	実施日	内容
歴史まちづくりカードの作成・配布	平成30年10月17日～	QRコードで情報が読み取れるカードを15,000部作成した。
鑄物教室	令和元年7月7日、11月23日	葦山反射炉にて、鑄造体験を実施した。
文化財シンポジウム	令和元年12月14日	「宗瑞打ち入り茶々丸たいへん!!」
文化財講座	令和2年1月15日	江川邸建造物の見学
県内世界遺産PRイベント参加	令和2年1月15日	葦山反射炉の認知度向上のため、静岡県中西部デパートにてイベントを開催。

●防災訓練の取組

実施主体	実施日	対象文化財
伊豆の国市及び文化財所有者	令和元年9月1日	市内所在文化財
江川家住宅	令和2年1月15日	重要文化財江川家住宅、史跡葦山役所跡
願成就院	令和2年2月23日	史跡願成就院跡、国宝阿弥陀如来坐像運慶作他

●民間団体への助成・支援や連携・協力した取組

名称	実施日	内容
北条早雲公没後500年祭	11月23日	北条早雲公没後500年祭を実行委員会とともに実施した。
葦山反射炉を愛する会	7月1日	葦山反射炉清掃活動を実施した。

著作者名:伊豆新聞本社
 平成30年10月17日 掲載

歴史まちづくりカード



表



裏



文化財シンポジウムチラシ 鑄物教室(葦山反射炉ガイダンスセンター) 北条早雲公没後500周年記念イベント)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

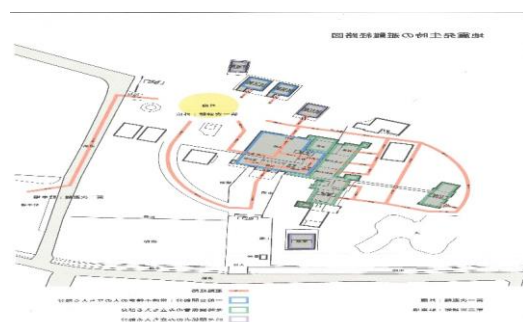
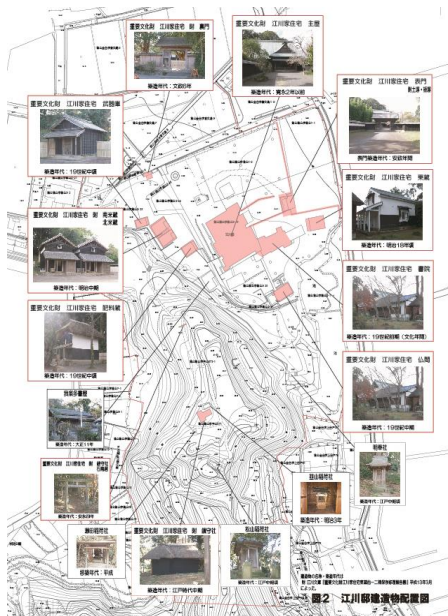
項目		評価対象年度	令和元年度
		現在の状況	
文化財の修理事業、文化財の周辺環境の整備事業、防災・防犯に関する事業		☐ 実施済	
		☒ 実施中	
		☐ 未着手	
計画に記載している内容	・所有者・管理者が行う日常的な点検により、文化財建造物の損傷の早期発見に努めるとともに、必要に応じて所有者等の意識向上を目的とした適切な助言を行う。		
	・文化財の周辺環境は、文化財の価値にも影響を及ぼす恐れがあるため、文化財の保存・活用を図るうえでは、文化財だけに措置を講ずるだけでなく、その周辺環境を含めて取り組むことが重要である。		
	・有形文化財は、火災や地震、落雷、水害、台風等の災害により、き損や滅失する恐れがあることから、個別の有形文化財ごとに防災対策を検討し、被災リスクの軽減を図る		
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で			
●文化財の修理事業 (重文) 葦山代官江川家関係資料保存修理事業、(国宝) 木造阿弥陀如来坐像運慶作美装化事業を実施し、文化財価値の維持に繋がった。			
●文化財の周辺環境の整備事業 葦山反射炉史跡内の樹木を伐採したことで、大砲製造に関わる産業システムにおいて河川が果たした役割について、視覚的な理解増進に繋がった。			
●防災、防犯に関する事業 (重文) 江川家住宅の耐震対処方針の策定を行い、被災リスク管理の向上に寄与した。			
進捗状況 ※計画年次との対応		実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)	
■計画どおり進捗している □計画どおり進捗していない			

状況を示す写真や資料等



史跡葦山反射炉 指定地内樹木伐採
 著作者名: 伊豆新聞本社
 令和元年7月23日掲載

国宝木造阿弥陀如来坐像運慶作 美装化事業



重要文化財江川家住宅対処方針

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

評価対象年度 令和元年度		
報道等タイトル	年月日	掲載紙等
歴史や伝統文化を生かしたまちづくりに向けて	平成30年8月号	市広報誌
歴史まちづくりカード	平成30年11月号	市広報誌
反射炉前で三番叟披露 DC・伊豆の国	令和元年5月28日	伊豆日日新聞(朝刊)
源氏あやめ祭で供養祭 伊豆の国	令和元年7月8日	伊豆日日新聞(朝刊)
水面にたいまつが炎「かわかんじょう」下る	令和元年8月3日	伊豆日日新聞(朝刊)
定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で		

計画認定等に関する特集記事を掲載することで、市内外への周知とともに歴史的資源のPRに繋がった。それに関連した祭事やイベントが新聞等のメディアに取り上げられることで、市民の文化財に関する関心が高まった。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
☒ 計画の進捗に影響あり ☐ 計画の進捗に影響なし	

状況を示す写真や資料等



市広報誌8月号に掲載した特集記事

市広報誌11月号に掲載した特集記事



著作者名:伊豆新聞本社
令和元年5月28日掲載

著作者名:伊豆新聞本社
令和元年7月8日掲載

著作者名:伊豆新聞本社
令和元年8月3日掲載

評価軸⑥-1

その他(効果等)

評価対象年度 令和元年度

項目

住民の意識向上

計画に記載している内容

本市の文化財は、これまで活用が十分でなかった面もあり、市内外の人びとへの普及・啓発についても十分とはいえない状況にある。このため、文化財に対する認識を高めるためには、より多くの人びとに文化財の存在や理解を促す機会を提供する普及・啓発の取組みが重要である。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

下記事業を実施したことにより、市内外への周知とともに歴史的資源のPRに繋がった。
・文化財シンポジウム
・学校教育との連携

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐ 計画の進捗に影響あり
☒ 計画の進捗に影響なし

状況を示す写真や資料等

●伊豆の国市文化財シンポジウム参加者数と市民の割合

年度	実施内容	参加人数	市民参加率
平成29年	「韮山城をめぐる攻防-韮山城を守る攻めるから考える-」	460	38.46%
平成30年	「武田信玄襲来!!-三国同盟崩壊と韮山城をめぐる攻防-」	439	37.36%
令和元年	宗瑞打ち入り茶々丸たいへん	350	40.50%

文化財シンポジウムは、市の歴史の事象や文化財にスポットをあてて年1回実施している。
市の歴史文化を理解してもらうため、シンポジウムを通じて内外に情報を発信している。市民の参加率は40%程度を維持している。

●学校教育との連携

・毎年、市内中学校2年生全員に「韮山反射炉検定」を実施し、韮山反射炉の理解増進及び文化財愛護の精神の啓発を行った。
・韮山反射炉ガイダンスセンターにおいて市内小学校による「韮山反射炉学習」の成果展示を行った。

学校名	平成30年度実施時期	令和元年度実施時期
韮山小学校		12/4～12/23
韮山南小学校	6/30～7/16	7/5～1/22
長岡北小学校	11/29～12/12	
長岡南小学校	11/13～11/28	11/15～12/2
大仁小学校	12/13～12/26	8/7～8/22
大仁北小学校	12/27～1/9	



平成30年度 文化財シンポジウム



「韮山反射炉学習」の成果展示

評価軸⑥-2

その他(効果等)

評価対象年度 令和元年度

項目

文化財の保存及び活用に向けた普及・啓発の必要性

計画に記載している内容

重点区域内に分布する文化財の普及・啓発に係る取組みを推進することは、歴史的風致を維持及び向上させる上でも重要である。普及・啓発の方法としては、訪れる人々の周遊を促すためのパンフレット・マップを配布するとともに、普及・啓発のためのイベントを実施するなどして、より身近に文化財を感じてもらえる機会を創出する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で。記事・議会議事録等を添付

本市の歴史的風致を多くの方々に知っていただくため、葦山反射炉をはじめ市内の歴史資源の情報をQRコードを通じて入手できる歴史まちづくりカードを作成した。観光協会が運営する伊豆長岡駅前観光案内所で配布することは、交流人口の拡大に向けて観光施設と歴史文化施設の回遊性を高めるための必要な周知方法と捉えている。歴史まちづくりカードを活用したカードラリー期間中の来場者も多く、案内所に立ち寄る観光者も増加した。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

☐ 計画の進捗に影響あり
☒ 計画の進捗に影響なし

国土交通省中部地方整備局管内の認定都市が連携して、歴史まちづくりカードを活用したカードラリーを実施した。今後も歴史資源の情報発信ツールの一つとして更なる活用の方策を検討する。

状況を示す写真や資料等

伊豆長岡駅前観光案内所の来場者数

	人数			人数		増減比		歴まちカード配布数
H29 10月	1,481	人	H30 10月	1,425	人	-56	人	73
11月	2,216	人	11月	1,634	人	-582	人	127
12月	1,728	人	12月	1,570	人	-158	人	118
H30 1月	1,672	人	H31 1月	1,711	人	39	人	116
2月	1,653	人	2月	1,323	人	-330	人	96
3月	2,168	人	3月	2,189	人	21	人	77
4月	1,681	人	4月	2,116	人	435	人	114
5月	1,664	人	R1 5月	2,147	人	483	人	119
6月	1,083	人	6月	1,124	人	41	人	128
7月	965	人	7月	1,099	人	134	人	79
8月	1,434	人	8月	1,429	人	-5	人	145
9月	1,307	人	9月	1,380	人	73	人	34
合計	19,052	人	合計	19,147	人	95	人	1,226

評価: 歴まちカードラリーの実施を公表したのがH30の10月であり、カードの収集を目的に案内所に訪れた状況が確認できる。カードラリーイベント期間が終了した令和元年9月までの来場者数は、2ヶ月を除いて前年比を上回っており、歴まちカードラリーの実施が本市を訪れる来場者の増加に寄与した。

参考: 葦山反射炉でのカード配布状況

平成30年度 10月～3月 359枚

令和元年度 4月～9月 254枚 計 613枚

評価対象年度	令和元年度
法定協議会等におけるコメント	
コメントが出された会議等の名称:伊豆の国市歴史的風致維持向上協議会	
会議等の開催日時:令和2年3月8日(日) 9:50~11:15 於:あやめ会館2階会議室	
(コメントの概要)	
【①組織体制】 特になし 【②重点区域における良好な景観を形成する施策】 特になし 【③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項】 (江川邸周辺の歴史的風致形成建造物保全事業) ・計画どおりに進捗していない事業については、それに対する課題と対応方針の記述を明確にすべきである。歴史的風致形成建造物の指定を検討したうえで、どのような対応方針とするのかを明記すべきである。 (史跡公園整備事業「守山中世史群」PFI事業) ・周遊バスの運行やルートを充実させるなど、多くの方々が訪れるように検討をお願いしたい。 (韭山城跡総合調査事業) ・付城跡地区の測量を行われたということですが、どの地区の測量を行ったのか。 【④文化財の保存又は活用に関する事項】 特になし 【⑤効果・影響等に関する報道】 特になし 【⑥その他(効果等)】 特になし 【全般に関すること】 ・歴史的建造物だけでなく、街の景観を形成する樹木についても、保存樹木のような形で、保護を検討いただけるとよいと思う。 協議会の様子	
	
(今後の対応方針) ・江川邸周辺の歴史的風致形成建造物の指定については、無形民俗文化財記録作成事業の調査結果に基づき検討する。 ・計画どおりに進捗していない事業については、それに対する課題と対応方針の記述を明確にする。 ・担当部署と連携して定期的な庁内会議を開催し、各事業の進捗状況を確認する。	
伊豆の国市-27	